

包括的スクール・カウンセリングにおけるPBIS（積極的行動支援）と促進要因との関連性の検討

最終更新日：2017年6月21日

【プロジェクト代表者】
教職実践講座
教授
西山 久子

キーワード

包括的スクール・カウンセリング, PBIS(Positive Behavior Intervention and Supports, 積極的行動支援), RTI

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

【目的】

- 1) 包括的School Counselingにおける積極的生徒指導PBISと学校適応援助の課題に基づき活動を体系化するUDL・RTI等の理論的・実践的整理を行う
- 2) 積極的生徒指導の推進に向け、小学校実践で成果が得られた「Positive Behavior Intervention and Supports (PBIS)」の中学校における導入経過を整理しプロセスを般化する
- 3) 1・2の成果から、積極的生徒指導としてのPBISの推進を、包括的School Counselingに位置づけた体系的な生徒指導のための推進モデルを構想する

【方法】

先行研究から、1次・2次・3次援助の各段階でのアプローチを整理し、先行実践を事例として個々に整理する。中学校で効果がみられた取組と統合し、実践的生徒指導の導入プロセスの抽出と推進モデルの構想を行う。

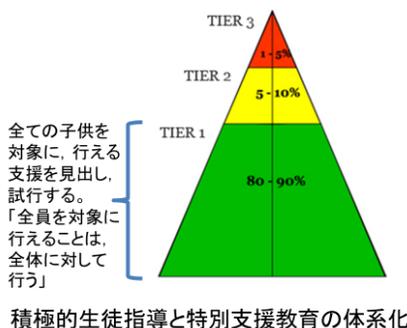
【結果と意義】

PBISの効果として、規範行動の向上に関して、对人的規範向上・对人的規範遵守・個人的規範遵守の間では、個人的規範遵守が最も強く認識されており、生徒指導導入における具体的成果が確認された。PBISの導入過程では、深刻な課題を抱える児童生徒への支援の位置づけとして、インクルーシブ教育の取組としてのUDL(学びのユニバーサルデザイン)等の日常的取組とそれらを統合するRTI(Response to intervention)の特性をふまえて校内体制作りのモデル化を行うことができた。PBISの導入を成功させることの基盤に求められる校内体制や併行して推進することが必要な概念について把握することで、米国をはじめ海外での先駆的なプログラムのわが国への導入に課題となってきた基盤作りに関する論考を行う資料整理が行えた。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

本研究での検討内容およびその背景となる実践から、以下のことへの貢献が可能となる。

- ポジティブな生徒指導に関する体系作りや校内体制に向けた理論的な枠組づくり
- 特別支援教育と生徒指導の関係性についての実践をふまえた理論的整理
- 包括的School Counselingの体系化
- 積極的生徒指導の校内への導入
- 学校適応援助体制の構想づくり
- PBISの体系的な校内への導入
- 生徒指導体制の構想づくり
- 教育相談体制の構想づくり



このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成28年度 福岡教育大学学長裁量経費研究推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

教職実践講座
教授 西山 久子(研究代表者)
(包括的スクールカウンセリングとPBIS実践・RTIの統合)
教授 納富 恵子(連携研究者)
(Universal Design for Learning研究での知見の共有)